

宇宙に漲る無限の力

火の熱は如何なる力で起こるか、また水の神の如何なる徳によつて造られたか、その力と出来た発露をきわめて觀れば神が生みたことを知る。宇宙に漲る無限の力が靈である。あらゆる力と靈を学び、その御厚德を心に修めるを信仰という。大自然の大いなる力、大いなる徳を日々に間断なく發揮するを神という。今という今が神世であることを認識するがよい。知識人は理屈で徳を説明する。靈界の徳を味わえば神は至仁至愛であつて、知者の理論づけたようなものではない。至れり尽くせりで何とも感極まつたものがある。これを神の御靈徳という。

宇宙天体の大自然の御働き毎に神と御名を敬称し、その神をきわめるには體的に神の御働きを把握せんとする。宇宙御神靈に御精神あるを大精神という。これを大教育するには、靈の働きをきわめて修行するのが神界を知ることである。これが神の教であり、宇宙本体の大教育である。人は生まれながらに魂を与えられた。生まれると乳の要求をする。本人が要求する如く見えるが、魂が肉體を守るから要求する。大きくなるに従つて次第に精神的を求めるのが靈である。靈の理解を得て、わが精神的に靈の働きを求める。この修行をするを靈を鎮めるといふ。靈が鎮まつて人は靈魂たましいとなる。靈魂たましいにも體的魂たましいと靈的靈たましいとあり、陰・陽である。精神的の理解は靈である。體的の理解は魂である。